

会議録

会議名 (審議会等名)		相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)		南区役所区政策課 電話０４２－７４９－２１３４（直通）		
開催日時		令和７年３月２６日（水） １４時００分から１６時１０分まで		
開催場所		南区合同庁舎３階 講堂		
出席者	委員	２２人（別紙のとおり）		
	その他			
	事務局	６人（南区長、他５人）		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	１人
会議次第		１ 開会 ２ 区長挨拶 ３ 議題 ・ 南区基本計画に示す取組目標の進捗について 取組目標Ⅲ 誰もが安心して暮らせるまちをつくれます ４ その他 ５ 閉会		

審議経過

主な内容は、次のとおり。（○は委員、●は事務局の発言）

1 開会

2 区長挨拶

審議に先立ち、南区シンボルマーク及び南区誕生15周年の紹介等を交え、挨拶があった。

3 議題

取組目標Ⅲ 誰もが安心して暮らせるまちをつくります

● 事務局より資料に基づき説明。

○ まず、安全・安心なまちの部分について各委員の意見を伺う。（井坂会長）

○ 南区は交通事故の多発区域である。ボランティアとして交通安全運動を行っているが、警察のような権限があるわけではないので難しさがある。交通安全協会は4月になくなってしまう予定である。南区交通安全協会は、総会の6月まで存続の予定だがその後は未定である。県は証紙を売らなくなることが県議会で決定したことで、交通安全協会の収入にも直結する。今後の交通安全運動をどのようにしていけばいいのかと思っている。新入学児のランドセルカバーをダイナボアーズと協力して安全協会で作成したが、次年度からは未定である。（鈴木委員）

○ 自転車の問題だが、谷口支部で登下校見守りなどの交通安全の活動をしているが、今後交通安全協会がなくなってしまうのは困ると思っている。資料Ⅰ－2の①市内での自転車事故件数について基準値を下回ったと説明があったが、どのような解釈なのか教えてほしい。（渋谷委員）

● 令和元年度の771件を基準値として、令和4年度は成果指標が基準値を下回ることができたという表現が正しい。（事務局）

○ 小学校の登校班において、共働き、少子化が進んでいて、旗振り当番が人員不足になり、登校班自体をなくす小学校も出てきている。低学年の子ども一人の登下校には不安を感じ

るので、保護者の問題でもあるが、地域でも考えていくことの必要性を感じている。(渡辺委員)

- 小田急相模原周辺では、大人の自転車運転について危険を感じている。子ども以上に注意することの難しさを感じる。(大西委員)
- 自転車事故が発生する要素はいくつかある。年代別で交通マナーの課題がそれぞれあると考えるので、要素別に検討する必要性を感じる。(姫野委員)
- 歩きスマホで前を見ず、ゲームをしている人がいて、自転車に乗っている側も恐怖を感じることがある。ぶつかる前に、自転車から降りて止まっていたとしても、自転車にぶつかってくる歩行者もいる。(遠木委員)
- 大学のキャンパスが駅から離れているので自転車通学は多い。通学者向けに自転車講習を行っているが、イヤホンをしたまま運転している学生がいる現状がある。自転車事故防止のために、年間1億5000万円でバスと警備員を配置している。14年前からスクールバスを導入して年間50万人程度の輸送力があるが、働き方改革もあり、バスの運転手確保が課題としてある。警備員を配置して誘導している場所では、ルールが守られているが、配置していない場所ではルーズになりやすい状況である。(朝日田委員)
- 約30年前に相武台に来たが、自転車の多さに衝撃を受けた。相武台は平らな地区なので自転車生活が便利で住みやすさがある。約20年間、緑台小学校の交通指導を行っている。当初は5名体制だったが、2名体制まで減り徐々に縮小した状況である。(嶋村委員)
- 率直に感じているのは、ボランティアの運営は今までのやり方で続けていくことには無理があるのではないかと。スポットバイトや、民間企業等の活力を使うなど、新しい方法を考えていかなければならないと思う。(小池委員)
- 人それぞれの中に安全レベルがあって個々で判断をしている人が多数なのかと思う。少し前は、自転車の賠償の話があり、啓発につながっていたかと思うが、最近は聞かない気がする。お金のシステムで対応していくと効果的なのかと感じた。(江野委員)
- この数十年で自転車に乗る世代のマナー意識はどのくらい変わったのかと気になった。昔は自転車の2人乗りなどを見かけたが、最近は見かけない。最近の若者がルールを守っている一方で、昔の感覚のまま運転している人もいないのではないかと感じる。(隈本委員)

- 私の会社では、自転車通勤が 10 名ほどいて、毎年交通マナーの研修を行っている。昨年の夏に自転車が車に轢かれてしまう事故があった。自転車運転者にヘルメットを着けさせるなど、事故が起こったとしても重大事故にならないように対策している。営業車を 60 台程度所有しているが、すべてにドライブレコーダーを取り付けている。急発進、急ブレーキなどリアルタイムに管理者に共有される仕組みとなっている。自転車に乗るマナーもそうだが、自動車を運転させる事業者としても意識をもって取り組んでいるところである。
(加藤委員)
- マナーという言葉で済んでいるが、マナー以前に道路交通法違反にあたるものもある。私自身も、車を運転するドライバー側と自転車に乗る側の 2 つの感覚をもっている。自転車は歩道ではなく車道を走るべきなので、自転車道に「自転車は車道です」と書くと効果があると思う。歩行者の信号で自転車を運転する人もみかける。普段自動車を運転していると、自転車のルールに目が行くが、自転車を運転する立場になると、右側の車道や歩道を走ってしまう実情がある。車は免許更新の際に、道路交通法を改めて勉強する機会があるが、自転車においては、その機会がない。北里付近では傘を差しながら自転車に乗る人が減り、カッパを着用して自転車に乗る人が増えて良い傾向だと思う。(田村(小)委員)
- 大野南自治会連合会では、毎年スケアードストレートを行っている。大野南中学校では授業の中で積極的に交通安全を取り入れている。高齢者の交通安全だが、歩行が困難になって、自転車に乗ることがある。パトロールや常日頃の声掛けしかやりようがないと感じている。制度上の問題も介在していると考える。(中村委員)
- 自転車の関係は、学校を中心に安全教育を徹底していくこと、地域の地道な運動も続けていくことが大切だと思う。麻溝地区では狭い道を歩行者と自転車が通る道が多くあり、すれ違う場面で危険なことがある。県道 52 号では歩道を広げ、自転車専用道路を作っているが時間がかかっている。警察に信号機取り付けの申請をしても、年に 1 か所程度、横断歩道は 2 年半で設置されたことがある。(中島委員)
- 新磯地区は田畑が半分で、商店街もほとんどなく、頻繁に自転車を通る地域ではない。自治会としては、マナーの講習会を定期的に行っている。お祭りの際に自転車のシミュレーションを合わせて行っている。それにより事故が減ったかの検証はできていないが。長年

ボランティアをやっている人たちに感謝している。警察から、事故が増えているという報告があるが、事故の詳細は守秘義務で聞けないことが多い。11月にダンプカーの巻き込みでお子さんのいらっしゃる女性が亡くなった事故があり、議員に相談して警察に歩行者・自転車分離の要望書を提出した。(鈴木委員)

- 交通安全には規制を厳しくすることや、マナーを浸透させるしかない。10年ほど前から行っているスケアードストレートでは、相模台地区は3つの中学校があるので毎年順番に授業の中で講義している。実際にスタントマンが行うので、迫力があり、費用は掛かるが大変効果的と考えている。小学校高学年向けにも行ったほうが良いと思っている。青パトで自転車のマナーなどを流している。月間約20日、年間250日と活発に活動している。(中村(明)委員)
- 資料Ⅰの成果指標のR5実績と、目標値の見直しはどのようなになるのか。事故の内容を守秘義務で開示できないとのことだが、事故の内容と原因が不明では対策を練ることができない。自治会での取組としては、ヘルメットの着用を勧めること、自分を守るためにも講習会を行うこと、警察に出張啓発を行ってもらうこと、中学校でのスケアードストレートの実施などがある。(浅田委員)
- 3月1日に自転車の乗り方等の「ふれあい交通教室」を行った。災害対策の面では、昨年の8月に市が応急危険度判定士に通知を出した。応急危険度判定士は市内に700人程度いて、そのうち100人が市の職員、他600人が民間である。発災の際、応急危険度判定士に近い避難所とそこでの活動依頼を通知したものであり、とても良いことである。事務局に質問があり、耐震化率について、昭和56年以前の旧耐震と昭和56年から平成12年までのグレーゾーンの建物と、平成12年以降の新耐震の建物は、市内の何棟が耐震化されているのか詳細を知りたい。旧耐震の耐震化がどう進んでいるのか教えてほしい。(田村委員)
- 担当部局へ確認が必要なことから次回以降の会議で示させていただく。(事務局)
- 県内は海拔0m地区が多いので発災時に相模原市は避難民の受け入れに苦慮すると思われる。相模原は台地なので仮設住宅を作りやすい土地ではある。(草薙委員)
- 避難場所について中学校と旧新磯高校があるが、避難場所の清掃状況や空調の設備環境が気になる。寝たきりや車いすの方は避難状況を不安に思っている。そのような方向けの案

内があると良いと思う。(鈴木(真)委員)

- 各地域に、避難所運営協議会があり、コロナの時にマニュアルを作成した。プライバシーに配慮した区画を増やしてほしい。ペットの受け入れについても検討があった。(渋谷委員)
- 大野台にある特別養護老人ホームを経営している。約5年前から自治会とタイアップして避難訓練を行っている。自治会の班長が班ごとの独居老人を把握していて驚いた。市と協定を結んでいるので災害があった際は、地域の安全確保の体制づくりに努めている。(草薙委員)
- 振り込め詐欺が最近多いと感じている、なぜ無くならないのか身近で体験された方などあれば共有をお願いしたい。(井坂会長)
- 振り込め詐欺の電話がかかってきたことがある。ナンバーディスプレイ等で発信者の電話番号を確認することが大切。(草薙委員)
- 法律学を専門に勉強している。高齢者を対象とした消費者被害、ねずみ講、ネットワークビジネス、マルチ詐欺が広がっている。明らかに詐欺だと分かれば気づくが、高額でないことで、自分が騙されたことを他人に知られることが恥ずかしくて相談できない事例や、歪んだ人間関係のため、騙されていると自覚しながら孤独を恐れて搾取される人がいる事例などがある。(隈本委員)
- 認知症のグループホームで、相手が認知症と分かると6品くらい買わされてしまう事例があった。(草薙委員)
- 自治会の中で防犯の講習会として、ネット上に警察が事例を挙げている。詐欺の種類ごとに事例を実際に見てもらうことで詐欺のパターンを共有する取組を行っている。(浅田委員)

4 その他

- 子どもに一日署長やってもらう「春のちびっこ警察隊のキャンペーン」をペDESTリアンデッキで行う。4/9(水)10時から10時30分まで。(鈴木委員)
- 埼玉で道路陥没があり、相模原市は点検して大丈夫と伺っているが、大沼から国立病院の方に下水管線が走っているらしいと聞いた。情報公開をしていただき安心材料としたい。

消防団について、定員が割れていて、様々な課題も抱えているのが現状。経費は市が賄っているが自治会が補填していることもある。(中島委員)

- 北里大学病院では災害時の対応ができるように用意はしているが、地域、行政とどのように連携していくのか考えていかなければならない。また、医療費は点数制であるが、大学病院は最新医療の提供が義務付けられており、医療機器の維持により経済的にひっ迫していることをご理解いただきたい。(朝日田委員)
- 事務局より次回区民会議で副会長を選任する旨、及び次回区民会議を5月に予定している旨の連絡があった。

5 閉会

相模原市南区区民会議委員名簿

別紙

(順不同・敬称略)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	田村 小次郎	大野中地区まちづくり会議		出席
2	中村 洋子	大野南地区まちづくり会議		出席
3	中島 勝平	麻溝地区まちづくり会議		出席
4	鈴木 真司	新磯地区まちづくり会議		出席
5	中村 明	相模台地区まちづくり会議		出席
6	浅田 聡	相武台地区まちづくり会議		出席
7	田村 久司	東林地区まちづくり会議		出席
8	鈴木 貴市	相模原南交通安全協会		出席
9	佐田 昌史	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
10	草薙 喜義	相模原市社会福祉法人経営者協議会		出席
11	渋谷 典彦	相模原市22地区社会福祉協議会南区連絡会		出席
12	渡辺 美帆	子育て応援団W i t h		出席
13	大西 麻衣	相模原商工会議所		出席
14	姫野 大輔	相模原青年会議所		出席
15	後藤 弘幸	相模原市民文化財団		欠席
16	遠木 ナオ	チームユニバース運営委員会		出席
17	井坂 聡	相模女子大学人間社会学部	会長	出席
18	藤田 百合	女子美術大学芸術学部		欠席
19	朝日田 卓	北里大学 地域連携室		出席
20	小池 清史	公募委員		出席
21	嶋村 裕子	公募委員		出席
22	江野 学	公益財団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム（市民・大学交流センター）		出席
23	隈本 光	南区若者参加プロジェクト実行委員会		出席
24	加藤 岳	ジェイコム湘南・神奈川 相模原・大和局		出席